

Regional Conference on Wastewater Purification & Reuse WWPR2012への参加

研究第一部
総括主任研究員
前田 明德



膜処理とリン資源回収技術を発表

2012年3月28日から30日の3日間にわたりギリシャ・クレタ島・イラクリオンにおいて、IWA主催の「Regional Conference on Wastewater Purification & Reuse WWPR2012」が開催されました。この会議は近年、国際的な課題となっている水資源の確保のため、廃水処理および再生利用技術の情報交流を主目的とし、11セッションに分かれて285の研究発表と34のポスター発表が行われました。

下水道機構からは研究第一部小峰主任研究員と私の2名が参加し、「下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン（第2版）」、「リン資源回収技術の経済性評価について」の2テーマの発表を行いました。膜処理技術についてはガイドラインの具体的な発行時期



研究会議の様相



発表の様相

や英語版発行の有無などの質疑があり、リン資源回収技術については発表用PPT資料を是非もらいたいなどの要望もあり、これら日本の技術への関心が少なからず高かったことを感じさせました。また、光触媒の水処理への適用がひとつのセッションとして独立しており、日本以上に西欧で関心が高いものになっていることをうかがわせました。



ギリシャ最大の淡水化設備

テクニカルツアーでは淡水化設備、堆肥化設備、膜処理設備の3カ所の見学が行われました。淡水化設備についてはギリシャ最大の処理規模（5000m³/日）であり、ろ過水はパイプラインやタンクローリー輸送により飲料用、灌漑用、産業用など幅広い分野に利用されているとのことでした。堆肥化設備については下水汚泥を用いたギリシャ最大の堆肥化規模（3000t/年）であり、肥料として有効利用されているとのことでした。また膜処理設備については100m³/日と日本でいえば実験設備規模ではありますが、嫌気・好気法を組合せて適切な処理を行い、農業用水などに有効利用されているとのことでした。

小峰さんも私もこのような国際会議への参加は初めてであり現地でのコミュニケーションには非常に苦勞しましたが、西欧諸国における水処理および再資源化における知見を深めるうえでは非常に有意義な経験をさせていただきました。



テクニカルツアー・逆浸透膜装置